

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	3970100396
法人名	医療法人 仁生会
事業所名	グループホーム西町
訪問調査日	平成 19年 11月 15日
評価確定日	平成 20年 2月 21日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3970100396		
法人名	医療法人 仁生会		
事業所名	グループホーム西町		
所在地 (電話番号)	高知市西町115番地 (電話)088-822-7211		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	平成20年2月21日

## 【情報提供票より】(19年10月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 5 月11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	23 人	常勤 7 人 非常勤 16 人 常勤換算	9.35人

## (2) 建物概要

建物形態	併設/単独■	新築/改築■
建物構造	造り	
	2 階建ての	1 階 ~2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23000~31000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	無■	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢 平均	86.5 歳	最低 75 歳	最高 98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	細木病院、細木ユニティ病院、岡林歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、職員の宿舎、民家を改造した建物である。住宅地の中にあり、静かな環境である。周辺の民家との調和がとれており、敷地内には畑もある。庭には季節の草花が植えられ、家庭的な雰囲気が漂っている。開設後8年を経過した事業所は、地域のニーズに応えながら一定の成果を上げてきた。その豊かな経験が背景にあり、利用者が安心して、ゆったり暮らしていることが如実に窺われた。今後も「ゆっくり・ゆったり」の時間の中で、くつろぎ、安心してその人らしい暮らしが継続されると共に、さらに、地域に密着したグループホームとして発展することを期待する。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題については、管理者を中心に、全職員で課題を検討しチェックをした。利用者の意向も取り入れながら、実践に繋がるケアを提供している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は、評価の意義を十分理解しており、前回の改善課題も考慮しながら、ケアの統一化やサービスの質の向上に向け、全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議では、委員から災害のこと、民生委員の交代などについて、また事業所からは防災訓練、行事、ホーム全体の近況報告などを基に話し合いが行われ、双方向的な会議を目指した努力が窺われる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪問しやすい雰囲気、話しやすい関係はできており、現時点では苦情、意見などはない。身体面での不安については相談がある。母体法人が、年2回「意見、要望」のアンケートを家族に送付している。返送されたアンケートは関係部署が管理し、内容については話し合いを持ち検討する体制ができています。また些細な相談や日常の会話の中から、家族の思いをキャッチするよう心掛けています。今後は、月一回のバスレクへの家族の参加を呼びかけ、自然な形で意見・要望などが引き出せるよう検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会へ入会し、町内会の定期総会には利用者代表と職員が出席している。町内での敬老会、神社のお祭りに参加している。利用者も、散歩時の挨拶から近隣住民の方と顔見知りになっている。住民からも、気軽に声を掛けてくれるなど、日常生活における地域との連携はとれている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 [ ]  <input type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 [地域密着型サービスの意義、役割は理解できているが理念の見直しは今後の課題である。]	○	地域で暮らし続けることができ、地域の一員として生活していける関係をつくっていくなどを反映した理念づくりを期待する。
2	2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 [部署会、月1回の全体会などで理念について話し合い、理念について理解を深め、実践と共有に努めている。]  <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 [職員は日々、理念を念頭に、理念とのずれがないか、具体的なケアについて話し合っている。]		
2. 地域との支えあい					
3	5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 [町内会の総会には、利用者の代表と職員が出席している。]  <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 [町内で行われる敬老会、神社のお祭りに参加するなど、地域住民との交流の場面は多い。]		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<input type="checkbox"/> 評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。  [職員は、評価についての意義を理解している。職員一人ひとりの「気づき」を全体会で話し合い、評価に取り組んでいる。ケアの見直しやサービスの質の向上に役立てる努力をしている。]  <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 [前回の評価で課題となった居室の環境については、利用者と話し合い、パイプのハンガーの設置、昔の小物入れなどを置くことにより改善できている。]		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。  〔会議では、参加者から災害時のこと、民生委員の交代のことなど意見が出る。事業所からは、防災訓練のこと、行事関係の報告、ホーム全体の近況などについて報告する中で、双方向的な会議を目指す努力が窺える。〕  <input checked="" type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 〔 〕		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。  〔 〕	○	今後も、事業所側から行政に対して積極的に働きかけ、継続した協働関係を築く努力を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 〔家族が訪問しやすい、話しやすい雰囲気づくりにも心掛けている。〕  <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 〔利用者の近況報告などに加えて、必要な物品などを依頼することもある。〕  <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 〔心身の状況、変化については特に留意し、家族との連絡は密にとっている。〕  <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 〔毎月1回、預かり金明細のコピー、支払い分についての領収書を送付している。〕		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 〔 〕  <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。  〔法人全体として、年2回苦情申立書を家族に送付し、法人に返送してもらっている。関係部署が保管し、職員が閲覧し検討する仕組みになっている。また家族からは、口頭で身体的なことに対する要望などがあり、その都度対応している。〕		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 〔職員の異動は最小限にし、継続した支援を心掛けている。新人職員が採用された場合は、先輩職員と共にケアに当たり、関係づくりには留意している。〕  <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 〔職員の異動については、利用者、家族にも事前に連絡して、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。〕		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 〔年間の研修計画を、法人の内外別に立て、全職員がケアの向上を目指して研修・会議などに参加できる態勢を取っている。〕  <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 〔研修などに参加した職員は、研修報告書を提出し受講内容を発表している。報告書は、全職員が閲覧できるようにするなど内容の共有に努めている。〕		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 〔県内のグループホーム連絡協議会に加入している。〕  <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 〔管理者、職員は、研修の場で知り得た参加者と、研修後も電話などで情報の交換を行うなど交流を深めている。〕		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 〔入居時には、心身の状況、病歴、生活歴、趣味などを聴取し、入居後のケアに活かすことができるよう把握に努めている。新しい情報が入れば書き加えている。〕  <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 〔希望者には、見学は自由にしてもらっている。体験入居については現在検討中である。また、希望があれば昼食を摂りながら見学(体験)することもできる。〕  <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 〔 〕		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 [一緒に過ごす中で、「苦しみ」「不安」「喜び」など利用者のさまざまな思いについて理解し、把握に努めると共に「支え合う」関係作りに留意している。]  <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 [「できること」はしてもらい、「できそうな」と思う場面では手をさしのべるという気持ちで接している。和やかな雰囲気が見受けられる。]  <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 [長年培ってきた生活の技を随所で教えてもらって。料理、掃除の仕方、畑作業、花の水やり、四季の挨拶文の書き方など教えてもらう場面が多い。]		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 [日々の係わりの中で積極的に声をかけ、表情などから希望、意向の把握に努めている。]  <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 [意向がつかめない方については、家族、近所の方からの情報をもとに利用者の生活に接し、表情の変化を見ながら、何が最良かを探る努力をしている。]		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 [家族からの要望は身体面への不安が多い。職員は、家族の要望をもとに、その人らしさを失わない介護計画を作成する努力をしている。]  <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 [スタッフ全員が「気づき」を書き入れている。全体会、カンファレンスでの意見交換は活発である。]		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 [定期的には、3か月に1回の見直しが行われている。]  <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 [利用者の状態の変化、家族からの要望があった場合は、その都度検討・見直しを行っている。]  <input checked="" type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 [状況により個別に対応している。]		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 〔母体法人の医療機関が近くにある、日頃から連携が取れている。利用者、家族が安心して生活が送れるように、また状態の変化にも対応できるよう支援をしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 〔利用者、家族の希望に応じて対応している。病状にもよるが、過去に数名の方がホームで終末を迎えている。医療連携体制を活かした支援ができています。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 〔病状など急変時は、家族に連絡後、職員が同伴のうえ受診している。外出、外泊などの支援も行っている。〕		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 〔本人、家族と話し合いのうえ希望による受診ができるよう支援をしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 〔 <input type="checkbox"/> 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 〔受診前、受診後に報告し、家族・職員とも情報の共有はできています。〕		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。  〔重度化、終末期の対応は、本人、家族の希望に沿う支援をしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 〔職員会、ミーティングの時など、プライバシーの保護について話し合っている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。 〔職員会、ミーティングの時など、個人情報保護法に基づいた対応を徹底している。〕		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。  〔一人ひとりのその日の体調に合わせて、個性のある支援を心掛けている。コンビニや少し離れたスーパーに行くなど希望に沿えるよう支援している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 〔個々の利用者を尊重し、その人に合った支援をしている。例として、食事時間は基本的には決めているが、強制ではなく利用者のペースに合わせている。食事に時間のかかる方もいるが、気長に見守りながら支援をしている。〕		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 〔献立は、利用者の希望を取り入れ作っている。調理の下ごしらえ、盛り付け、片付けなど一連の流れは、利用者の意志、気持ちを尊重して進めている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 〔全介助の方を除いては、利用者と職員は同じものを一緒に食べ、食事を楽しむ雰囲気づくりを大切にしている。〕		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 〔利用者の希望に合わせて入浴できる体制になっている。夜間入浴を好む方も4～5名いる。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 〔拒否の方に対しては、言葉掛けには特に留意している。職員が話し合い、対応を工夫しながら安心して入浴ができるよう支援をしている。〕	○	入浴介助の際、介護用のロングのエプロンを使用することがある。感染性の皮膚疾患など特別な場合は例外としても、この着用は、利用者の不安、不快感を増幅させることに繋がるので、「利用者を脅かさない入浴支援」という原点に立ち返り検討されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 [職員は、利用者の経歴や経験などを把握しながら、どのような工夫をすれば個々の利用者が「喜びのある日」を過ごせるかを探りながら支援をしている。] <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 [過去に体で覚えた経験を活かし調理の手順、畑作業での畝づくりなど、利用者一人ひとりに合った行動が、気分や活力を高め、生活に張り合いや喜びを生んでいる。一人ひとりの能力を活かし、楽しむ事ができる場面づくりに心掛けている。] <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 [ ]		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 [一人ひとりのその日の体調に配慮しながら、行きつけの美容院に行ったり、希望があれば馴染みの店に同伴するなど個別の対応ができています。] <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 [歩行困難で、車椅子、リクライニング車椅子が必要な方も、他の利用者と一緒に近くの神社に行くこともある。庭に出たり、戸外で過ごすことを積極的に行っている。] <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 [近隣への外出、買い物は日常的に行われている。遠方へのドライブには、大方の利用者が参加し楽しんでいる。]		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 [ ] <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 [職員は、利用者の外出の習慣などの把握はできている。外出傾向のある方には、さりげなくついて行き、見守りながらケアを行っている。] <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 [散歩の時などに挨拶をして、日頃から地域の方との交流を深めるようにしている。地域住民が、利用者へ声かけをしてくれるなど良い関係を築いている。]		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 〔消防署や地域の方の協力を得て、避難訓練などを定期的に実施している。消防署の協力のもと夜間設定の訓練も行っている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 〔消火器などの点検は業者に依頼し、定期的に行っている。備蓄用品としては、飲料水、懐中電灯、防空頭巾、オムツなどを準備している。現在、敷地内に備蓄用の倉庫の設置を検討中である。〕		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 〔殆どの利用者が、食事は全量摂取している。まれに、摂取量が少ない方についてのみ記録をしチェックをしている。水分も同様のチェックである。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 〔利用者の希望を取り入れた献立をホームの職員が立てている。おやつや補食にも配慮している。〕 <input type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 〔 〕	○	基準省令に規定する趣旨(考え方)は、食事量、栄養摂取や水分補給を画一的に行うことなく、一人ひとりに合った支援をすることの重要性について述べたものである。その為には、一人ひとりが1日全体でどの程度の量や栄養、飲水量がとれているか、おおよその量を職員が常に意識しながら関わることの指摘である。従って、これらの摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有することが重要である。また、1年に1回、ある日の献立について栄養士がチェックをしているとのことであるが、前述の指摘の趣旨からも、栄養士の専門的アドバイスの頻度についての検討を併せて期待する。
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 〔共用空間は、居心地よく、安心して過ごせる場所となっている。居間の隣が台所であり、食事前は、匂いを通しておかずが話題になる。和やかな雰囲気である。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 〔利用者と一緒に作った作品の掲示も、家庭的雰囲気を醸しだしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 〔窓から見える庭には、季節の花が植えられ、玄関にも季節の花が活かされている。四季を味わい、くつろぎ、安らぎのある暮らしができるように配慮している。〕		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 〔入居後、年数の経っている方などは馴染みの家具に囲まれ、居心地よく、家庭の延長を思わせる。利用者の好みで、部屋の中の押入などに家具類をしまい、整然と整理をしている方もいる。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 〔職員は、本人の意向を確認しながら、話し合い、温かみのある部屋になるように努力をしている。〕		